埼玉アーツシアター通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS

2014.11-12
NO. 54



彩の国シェイクスピア・シリーズ 第30弾×さいたまネクスト・シアター第6回公演『リチャード二世』

日本昔ばなしのダンス 近藤良平×下司尚実／野村万作／アレクサンダー・ロマノフスキー

20th SAITAMA ARTS THEATER

埼玉アーツシアター通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS

CONTENTS

2014.11-12
NO.54

03 PLAY
ニナガワ×シェイクスピア レジェンド第2弾
『ハムレット』藤原竜也インタビュー

06 PLAY
彩の国シェイクスピア・シリーズ第30弾×さいたまネクスト・シアター第6回公演
『リチャード二世』

07 COLUMN
アーティストの原点15 野村万作

08 DANCE
日本昔ばなしのダンス
近藤良平『ねずみのすもう』下司尚実『いっすんぼうし』

10 MUSIC
埼玉会館でのクリスマス&ニューイヤー
ランチタイム・コンサート第27回　渡辺克也 オーボエ・リサイタル
ニューイヤー・コンサート2015　大谷康子&東京交響楽団室内合奏団

12 MUSIC
ピアノ・エトワール・シリーズVol.26
アレクサンダー・ロマノフスキー

14 REPORT
彩の国レクチャー・シリーズ「劇場と地域づくり」第1回／「埼玉会館の建築」

15 TOPICS
彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念パーティー

16 EVENT
彩の国さいたま芸術劇場 オープンシアター
～開館20周年記念感謝祭開催!～

18 REVIEW
2014.9-10　彩の国のアーツ

20
イベント・カレンダー／チケットインフォメーション
彩の国シネマスタジオ

23
THEATER BRIDGE

24 COLUMN
彩の国LOUNGE vol.14



COVER
『ハムレット』　Photo◎川田洋司［mosa inc］／渡部孝弘

SAITAMA ARTS THEATER PRESS　2014.11-12　No.54
編集◎市川安紀［アルカディア社］、結城美穂子　デザイン◎中野一弘、鶴田大志、河西謙一［bueno］

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15.November 2014 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2014年10月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ番外編
ニナガワ×シェイクスピア レジェンド第2弾

『ハムレット』藤原竜也

シェイクスピアには縁がなくとも、タイトルは誰もが知っている『ハムレット』。
生涯に1度も演じることなく俳優人生を終わらせる者が大半を占める中で、
藤原竜也は弱冠21歳で演じて以来、2度目のタイトルロールに挑もうとしている。
12年を経て自身を駆り立てているのは、「今、やらなければ」という焦燥にも似た思いだ。

取材・文◎市川安紀　Photo◎細野晋司

地の底から生まれ直して 最大の「山」に挑む



ネクスト版に受けた衝撃

蜷川幸雄の伝説的シェイクスピア作品を新演出で上演する「ニナガワ×シェイクスピア レジェンド」シリーズ。８月に上演した『ロミオとジュリエット』に続き、いよいよ年明けには第２弾『ハムレット』が登場する。これまで蜷川が本作の演出を手がけたのは実に７回。単に再演を重ねたのではなく、〈新演出で〉７回というのは驚異的というほかはない。その中で藤原が主演したのは2003年（Bunkamuraシアターコクーン）。当時21歳という若さは“日本の演劇史上最年少”と話題を呼んだ。装置らしい装置は金網のみというセンターステージで、若者たちの生と死がひりつくように交錯した鮮烈な舞台だった。

直近の上演は2012年、さいたまネクスト・シアター公演として彩の国さいたま芸術劇場で上演された『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』。大ホール内にしつらえたアクリルの舞台、突如として登場した着物姿の演歌歌手こまどり姉妹に啞然とした観客も多かったはずだ。

このネクスト公演を観劇した藤原の胸中に、「もう一度自分もハムレットを」という思いがむくむくとわき上がる。

「素晴らしい舞台でした。ネクストの俳優さんたちが力強くて、勢いがあって。こまどりさんにも驚きましたね。蜷川さんが演出する『ハムレット』はこのネクスト公演が最後かもしれないとも思ったんですが、自分が俳優としてもうひとつ突き抜けるために、ここで自分に大きなものを課さないとダメだと思ったんです。そしてまたこの『ハムレット』の世界に入ってみたい！と。それで蜷川さんに“直訴”しました」

渾身のネクスト版『ハムレット』を終えたばかりの蜷川を突き動かしたのは、藤原の、この思い込みとも言える情熱だった。

『ジュリアス・シーザー』の苦闘

12年ぶりに再び挑戦することになった『ハムレット』を控え、その前の10月、藤原は当劇場での彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾『ジュリアス・シーザー』でマーク・アントニーを演じていた。正確には、この冊子が発行される頃はまだ大阪公演中である。今回話を聞いたのは埼玉公演の真っ只中で、〈身も心もアントニー漬け〉といった風情だった。これまでにないほど稽古で苦しんだというこの作品を『ハムレット』の前に経験したことは、藤原にとって大きな意味を持ったようだ。

「“どうやったらここから抜けられるんだろう？”と思うくらいのどん底を経験しました。群衆を言葉で動かすアントニーという人物の説得力から、語尾のトーンなどの細かい技術的な部分に至るまで、蜷川さんから与えられた多くの課題がなかなか乗り越えられなくて。稽古の途中はもう、八方塞がり（笑）。24時間アントニーのことばかり考え、稽古場では無口になるし、周りの皆さんから笑われてました。でも共演した吉田鋼太郎さんにお願いして個人稽古の相手をしていただいたり、いい先輩に恵まれたことがすごく勉強になっています」

特に蜷川から檄を飛ばされていたのが、もはや勢いで突っ走る若手ではない、ということ。30代に入り、自分自身も痛いほど感じている。

「近年、蜷川さんから求められることはどんどん変化してきています。若い時のように感情を最優先させるのではなく、ストレートに発した台詞に感情を自然に乗せられるようになっていなければダメだ、と。声の出し方のクセなども含めて、そろそろ次の段階へ行かなければと、再三発破をかけられてますね。前回は20歳そこそこの人間が『ハムレット』をやるということだけで話題になっていたわけで、あの頃と今回とは大きく違っていて当然のはず。しっかり準備し、心して稽古に臨まなければ、また『シーザー』と同じ苦しみを味わうことになる。……と言いつつ、絶対にまたビシビシやられると思いますけど（笑）」

もっと先へ

今回の『ハムレット』でも、藤原にとっては頼れる“先輩”たちが顔を揃えている。クローディアスの平幹二朗は、蜷川演出の『ハムレット』（78年）をはじめ、あまたのシェイクスピア作品に主演してきた言わずもがなの名優だ。ハムレットが信頼する友人ホレイシオには、『シーザー』でタイトルロールを演じ、藤原とは共演の機会も多い横田栄司。『シンベリン』でも王妃に扮したガートルードの鳳蘭、前回の藤原主演版に続きポローニアスを演じるたかお鷹など、盤石の蜷川組がずらり。その一方で、蜷川作品初登場となるオフィーリアの満島ひかりとの共演も心待ちにしている。

「自分はともかく（笑）、ひかりちゃんがきっと素晴らしいと思いますよ。また厳しい稽古が待っていると思いますけど、先輩たちに必死についていきたいですね。ここをクリアしなければ、俳優として次に進むことはできない。越えなければならない最大の山になると思います。『シーザー』では地の底を味わったので、『ハムレット』で生まれ直すのはちょうどいいんじゃないかな」

ハムレットへと“生まれ直す”ためのスイッチが入るのは、もう間もなくだ。



『ハムレット』（2003年／写真提供：Bunkamura）
Photo◎細野晋司



『ジュリアス・シーザー』（2014年）
Photo◎引地信彦



藤原竜也

ふじわら・たつや
1982年、埼玉県生まれ。97年、蜷川幸雄演出『身毒丸』ロンドン公演で初舞台。以後、『ハムレット』『ムサシ』『日の浦姫物語』『ジュリアス・シーザー』など数々の蜷川演出作品に出演。また野田秀樹、栗山民也、グレゴリー・ドーラン、三谷幸喜、いのうえひでのりらが演出する多くの舞台で活躍。映像では『バトルロワイアル』シリーズ、『カイジ』シリーズ、『藁の盾』、ドラマ『遺恨あり』『いねむり先生』『ST 赤と白の捜査ファイル』などに主演。2015年１月には映画『ST 赤と白の捜査ファイル』が公開を控える。

公演概要

蜷川幸雄 80 周年記念作品
ニナガワ×シェイクスピア レジェンド第2弾
『ハムレット』

日　　時：2015年1月22日（木）～ 2月15日（日）

1月	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
13:00			★	★	休演	★				★
14:00							★	★	★	
18:30	★	★	★			★				★

2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水・祝	木	金	土	日
13:00	★	休演	★			★	★	★	休演	◎				★	★
14:00				★	★						★	★	★		
18:30			★			★				◎				★	

◎：映像収録のため場内にカメラを設置します。

会　　場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演　　出：蜷川幸雄
**作　　**：W. シェイクスピア
翻　　訳：河合祥一郎
出　　演：藤原竜也、満島ひかり、鳳 蘭、平幹二朗、
満島真之介、横田栄司、内田健司＊、たかお鷹、
山谷初男、大門伍朗、廣田高志、星 智也、野口和彦　ほか
＊さいたまネクスト・シアター

チケット（税込）
一般・メンバーズ：S席10,800円／A席8,700円
※当日券は毎公演発売予定です。
詳細は確定次第ホームページ等でお知らせいたします。
※本公演はメンバーズ料金の設定はございません。

PLAY

〝蒼白の少年少女たちによる〟シェイクスピアが登場！

彩の国 シェイクスピア・シリーズ 第30弾 × さいたま ネクスト・シアター 第6回公演

『リチャード二世』

鏡に映る顔に若き王は

シェイクスピア全37作の完全上演に向けて、ついに第30弾に突入する「彩の国シェイクスピア・シリーズ」。今回はシリーズ初の、さいたまネクスト・シアター公演として上演される。いや、ネクスト公演がシェイクスピア・シリーズとして登場すると言うべきか。『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』では初めてシェイクスピアに挑み、読売演劇大賞優秀作品賞を受賞するなど高い評価を得た。その後ギリシャ悲劇、カミュ作品など経験を重ねた彼らが、蜷川幸雄のもとでシェイクスピア・シリーズにどんな新風を吹き込むのか注目される。

今回登場する『リチャード二世』は、シェイクスピアの中でも比較的上演される機会の少ない英国史劇。だが、タイトルロールのリチャード二世は失意のうちに王位を追われ、暗殺されるという屈辱的な人生を送った若き王で、その複雑なキャラクターは非常に興味深い。繊細な美しさを持ちながら政治家としては愚策を重ねて退位を迫られ、鏡に映した自分の顔に失望して鏡を叩き割る場面は大きな見どころとなっている。そのリチャード二世を退位に追い込むのが、従弟のヘンリー・ボリングブルック。後のヘンリー四世だ。2013年に当シリーズで上演した『ヘンリー四世』の前日談に当たり、因果関係の謎解きとしても楽しめる。

公演概要

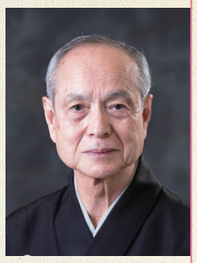
蜷川幸雄 80 周年記念作品
彩の国シェイクスピア・シリーズ第 30 弾
さいたまネクスト・シアター第 6 回公演
『リチャード二世』

日　　時：2015年4月5日(日) ～ 4月19日(日)

4月	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:30		★	休演	★	★		★	★	休演	★		★	★	★	★
18:30	★				★	★	★				★	★		★	

会　　場：彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター（大ホール内）
※本公演は大ホール舞台上の特設劇場での上演のため、客席及び椅子の形状が通常と異なります。
演　　出：蜷川幸雄
**作　　**：W. シェイクスピア
翻　　訳：松岡和子
出　　演：さいたまネクスト・シアター

チケット(税込)
全席自由　一般：4,000円　**メンバーズ**：3,600円
発 売 日：一般2015年1月31日(土)　メンバーズ2015年1月24日(土)



Mansaku Nomura

狂言師 野村万作

今年、3歳での初舞台から80年という節目を迎えた人間国宝・野村万作。
狂言師として先人の芸を継承するだけでなく、現代劇や海外公演にも果敢に取り組んできた。
人間のおかしみを大らかな笑いで包む伝統芸能の担い手は、今日も歩みを止めることはない。

取材・文◎市川安紀

「父の芸を超えなければ父への恩返しになりません」

まっすぐな目線と優しさ

私は祖父（初世野村萬斎）と父（6世野村万蔵）に師事しました。祖父は狂言が好きになるように教えるので厳しくないんです。銀座の天ぷら屋さんにもよく連れていってくれました。父は「きちっと仕込まなければ」という思いも強くなりますから、自然と厳しい稽古になります。それでも金魚すくいに連れていってくれたり、遊んでもらった記憶はありますよ。でも戦争で家も装束も焼け、父は戦後ずいぶん辛い思いをしたと思います。そんな苦しい時代があってこそ、今日の狂言の隆盛があるんです。

運良く父には光が当たりましたが、その陰には恵まれずに亡くなった素晴らしい人がたくさんいました。私が父を好きなのは、自分だけが地位を得て天狗になるのではなく、年上の同業の人にも相応の地位を得てほしいと事あるごとに言っていたんです。非常に大らかで、人間的魅力がありました。家来である太郎冠者役が素晴らしかったのは、そうした人柄が反映するんですね。父の親友で彫刻家の関頑亭（せきがんてい）さんが、父を評して「まっすぐな目線の人だった」と。つまり、上にへつらわず、下に威張らない。人間の長所と短所、すべてを含めた庶民の代表である太郎冠者を演じるには、やはり人柄の良さがなければ出来ないでしょうね。別の言い方をすれば、役に対する愛情や優しさが観ている方にも浸透していけば、いい舞台になるのではないかなと。必ずしも笑いはなくても、心が和んだり、「いいものを観たな」と思ってもらいたい。狂言は言葉も演技もシンプルですが、役者の力で複雑でゴージャスなものを感じ取っていただけたら。それが僕の理想です。でも、なかなか理想通りにはいきませんね。



『子午線の祀り』で義経を演じた（1979年4月　国立小劇場）

現代劇にも古典の背骨を

20代から外部の舞台にも出演しました。特に印象深いのは、木下順二先生の『子午線の祀（まつ）り』で演じた源義経です。お能や歌舞伎でも義経は登場しますが、戦上手だけれど欠点もある義経像を真に描いた演劇は、『子午線～』だけではないでしょうか。素晴らしい作品で義経を演じることができたのは誇りです。演出の宇野重吉さんは台本を深く読み込み、洋服のまま義経の演技をつけられても義経に見える。尊敬する方でした。僕は他の演劇の方に混じってひとり出るわけで、言わば狂言代表です。いい演技をしないと狂言の人々に申し訳ないですし、逆に演劇公演に出ることで、狂言をもっと勉強しなくてはとも思いました。狂言師としての背骨をきちっと持った上で、その特長を生かせる新しい仕事をしたいと考えたものです。つまり古典に立場を置いていたということです。やはり、師匠である父親の芸を信じていましたから。父は79歳で亡くなりましたが、自分が父の年齢を越えてから、やっと父のことを冷静な目で見られるようになりました。尊敬するばかりではなく、父の芸を超えなければ、年齢を越えたことにはならない。父への恩返しにはならないんです。

年齢と共に、体力的に出来るものの幅は狭くなっていきます。80代の芸と、倅（せがれ）（野村萬斎）の40代の芸とは当然違いますから、観る方には芸の違いを味わっていただきたいですね。そうして芸は進化していくもの。伝統芸は止まっていないんですよ。

のむら・まんさく　狂言師。1931年東京都出身。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)。祖父・故野村萬斎、父・故6世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。狂言の秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、朝日賞、紫綬褒章、旭日小綬章など受賞・受章多数。国内外で狂言の普及に貢献する。『月に憑かれたピエロ』『子午線の祀り』『法螺侍』など新しい試みにも盛んに取り組む。

column

笑いは世につれ

時代と共に同じ狂言でも観客の反応は変化していく。『縄綯（なわない）』という曲目では、太郎冠者がよその奥方の顔の悪口をさんざん言い立てる。「昔は皆さん大いに笑っていましたが、今はあまりお笑いになりません。色黒だとか鼻が低いとか額が出てるとか……。今の世ではセクシャル・ハラスメントですからね。私も女性のお客様の前で言うことに抵抗があって、時々演じてみますが見事にうまくいきません」（万作）。

「新春狂言 万作・萬斎の世界」の公演情報はP.22をご参照ください。

子どもと大人のためのダンス

日本昔ばなしのダンス
近藤良平『ねずみのすもう』×下司尚実『いっすんぼうし』
「愛」ある作品をお届けします!



日本の昔ばなしを題材に、子どもも大人も楽しめるユニークなダンス作品が大好評のシリーズ第５弾。彩の国では第１弾以来の再演となる近藤良平の『ねずみのすもう』と、初登場・下司尚実による『いっすんぼうし』の顔合わせ。さて、子どもたちの反応やいかに？

取材・文◎川添史子　Photo◎宮川舞子



『ねずみのすもう』(2006年)
Photo ◎ Arnold Groeschel

一寸法師のメンタルに惚れた

近藤　今回再演する『ねずみのすもう』(2006年初演)は、これまで幼稚園や美術館などにも巡回しているし、震災後にも上演したりと、場所や時によって演出も変わってきていて。と同時に「ここだけは見せたい」というコアな部分が残っているので、そこはもう一度、集中してつくりたいな。『いっすんぼうし』をやるんだよね？ 何を決め手に選んだの？

下司　参加が決まった時に良平さんに相談したら、「おれ、一番最初、すげー日本昔ばなし読んだから」って言われたんですよ。図書館の児童書コーナーで子どもに不審がられながらいろいろ読みましたよ～(笑)。今回、佐々木富貴子さんという身長148センチの小柄な俳優に出てもらうので、『いっすんぼうし』に決めました。一寸法師って小さいことでいじめられていたけれど、「広いところに出たらそんな僕にもできることが絶対ある」って言って都に出るんです。「ハンパないメンタルの強さ！　かっこいい！」って思って、これだと(笑)。

近藤　このシリーズって、あらすじを伝えることが目的ではなくて、そうやって「メンタルを見せたい」っていうフォーカスの当て方もありなんだよね。僕はいつも、子ども向けだからって“良い子、良い子”的につくりたくないっていう気持ちがある。だって、そもそも日本昔ばなしに出てくる人たちが善良な人たちばかりじゃない。だいたい、悪者がいるし。

下司　簡単に人が死んだりとか、人の皮をかぶったりとか、想像すると「痛い痛い！」っていうことがいっぱい書いてあって、あらためて読んでみると子どものころは飛ばして読んでたな、すごい話が詰まっているんだと思って新鮮でした。

近藤　『ねずみのすもう』も、“痩せたねずみに餅をあげると強くなって勝つ”というだけでなく、結果、餅をあげたおじいさんがお金持ちになるって話なわけ。本当はあざとい話なんだよ(笑)。

下司　昔ばなしって「欲」がしょっちゅう出てきますよね(笑)。

近藤　欲の塊(笑)。でも昔ばなしにお約束の悪いおじいさんも実は悪くなくて、「不幸な状況をどうにか良くしたい」っていう人なんだなって。『ねずみのすもう』では、善悪や勝ち負けではなく、そういった中立的な図式で見せているつもり。でもさあ、一寸法師って、「えい、えい！」って鬼と闘うところしか憶えてないなあ(笑)。

下司　今回は、ストーリーからこぼれるところを大事につくっていけたらいいなと思っていて。実は、愛のある話なんですよ。

近藤　愛？ どういったところに？

下司　お姫様が、「一寸法師が頑張ったから背をあげてください」って打ち出の小槌を振って、その願いが実る話なんですよ。

近藤　なるほど。逆に、お姫様が小さくなってもいいのにね。

下司　まあ、それも一つの手ですけど(笑)。誰かの願いが誰かの背中を押して転がっていくっていう部分に、私は愛を感じたんですよねぇ。

今、面白がれるものを

近藤　なるほど。現代はちょっと暗い世の中の動きもあって、小難しい作品もつくれるし、そういうものに向かうこともできる。でも「日本昔ばなしのダンス」はそういったこととは違うところでつくれるっていうか、何にも邪魔されずに創作に向き合える。コンテンポラリーダンスがどうだとか、技術だとか、精神論だとかに寄っていくと非常につまらない気がするので「昔ばなしでダンスをつくりました！」っていうのが、今、ポップだし、気持ちがいい気がするな。

下司　アンサンブルで参加したNODA・MAP『パイパー』で野田(秀樹)さんと良平さんに同時に出会った経験が、私の中でとても大きいんです。お二人とも、いろんなことを広い選択肢からピックアップして面白がれる人たちだから。面白さの幅が揺れていくのを柔軟に楽しみながらつくってらっしゃいますよね。

近藤　その時その時で、自分が面白がれることって違うから。今、『ねずみのすもう』で全然違う作品をつくろうと思えばつくれると思う。20人ぐらい出して、トーナメント式の相撲にしようとか(笑)。

下司　面白そう(笑)。“親子で観られる”という企画だということも楽しみですし、同じ空間に集まった人たちが一緒に笑い合って、その時だけでも、全体が大きな家族みたいな時間がつくれたらいいな。でも実は今回、ちょっと心配なことが……。このシリーズって、女性の振付家の方の作品は女の子の反応がいいって聞いたんですけど、私の作品っていつも、男の子ウケがいいんですよね(笑)。

近藤　でも女の子３人で踊るんでしょ？ こっちは男ばっかりだし、身体の発し方が違うから反応は違うと思う。３人全員が一寸法師になっちゃえば？

下司　え～！ それイイなぁ……プランが変わっちゃうじゃないですか(笑)！





近藤良平

こんどう・りょうへい
コンドルズ主宰。振付家・ダンサー。ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。第４回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。NHK 教育『からだであそぼ』内「こんどうさんちのたいそう」などで振付出演多数。野田秀樹演出、NODA・MAP の舞台『THE BEE』で鮮烈役者デビュー。NHK 連続 TV 小説『てっぱん』オープニングなどの振付も担当。横浜国立大学、立教大学などで非常勤講師を務める。愛犬家。

下司尚実

しもつかさ・なおみ
振付家・ダンサー・俳優。小野寺修二の演出助手を務めた後、ソロ作品を創作開始。2010 年、自由形ユニット「泥棒対策ライト」を立ち上げる。出演作に、NODA・MAP『パイパー』『ザ・キャラクター』『南へ』『エッグ』『MIWA』、野田秀樹研究室『半神』(振付・出演)、近藤良平振付・演出『山羊ボー走』『山羊の一生』、康本雅子振付・演出『絶交わる子、ボンッ』など。彩の国さいたま芸術劇場には初登場。

公演概要

日本昔ばなしのダンス
近藤良平『ねずみのすもう』
下司尚実『いっすんぼうし』

日　時：2015年1月31日（土）開演 13:00 ／ 16:00
2月 1日（日）開演 13:00 ／ 16:00
会　場：彩の国さいたま芸術劇場 大練習室
演　目：『ねずみのすもう』
振付：近藤良平
出演：鎌倉道彦、藤田善宏、山本光二郎
『いっすんぼうし』
振付：下司尚実
出演：佐々木富貴子、鈴木美奈子、下司尚実

チケット（税込） 全席自由　好評発売中
大人（高校生以上）2,000円／
子ども（3歳以上中学生以下）1,000円
※本公演は大練習室での公演のため、座席の仕様が通常と異なるほか、座席数に限りがございます。（各回150席）
※3歳未満のお子さまの入場はご遠慮ください。

身近な人と楽しみたい

埼玉会館でのChristmas クリスマス& ニューイヤー New Year

街にクリスマス・ムードがただよい、ふと、音楽を家族や友達と楽しみたくなるこの季節。
浦和の埼玉会館でも、気軽に聴けて、内容も充実した演奏会が続く。ショッピングやランチと組み合わせて、
この機会に生演奏を味わってみてはいかが?

埼玉で愛されてきた名ホール、埼玉会館

浦和駅からほど近いところにあり立地に恵まれた埼玉会館は、第二次世界大戦後の近代建築を牽引した前川國男の設計によるもの。前川は、東京文化会館や、今年開館60周年を迎えるコンサート専用ホール、神奈川県立音楽堂なども設計している。1966年に開館した埼玉会館も、人々が集い楽しめる、気持ちのよい空間が広がる多目的ホールだ。埼玉県民にとってはなじみ深く、音がすっきりと響くクオリティの高さでもファンを集めている。クラシック音楽が街を彩る年末年始、心地よいホールにて家族や友人と気軽に心に染み入る美しい音楽を楽しみたい。

大人気のランチタイム・コンサートに浦和出身の名奏者が登場

毎回好評のランチタイム・コンサートは、平日の昼間に1000円で50分間、夢の時間をすごせるというもの。今回は浦和出身のオーボエ奏者、渡辺克也が登場する。渡辺は、ベルリン・ドイツ・オペラで11年間活躍したのち、現在はソリスツ・ヨーロピアンズ・ルクセンブルグの首席奏者として活動している。ソリストとしても国内だけでなく、世界の数多くのオーケストラと共演している。ベルリン在住の多忙なアーティストが、たった50分の公演のためにステージに立ってくれる贅沢! オーボエの音色はおろか形状がよくわかっていない人でも大丈夫。パラディールの《演奏会用独奏曲》といったオーボエの魅力が楽しめる曲から、《ホワイト・クリスマス》、《あなたに楽しいクリスマスを》などクリスマス・ソングも用意されているのだ。渡辺克也が紡ぎ出すオーボエの音色は、むしろ日頃オーボエに馴染みのない方にこそリラックスして聴いてほしい。短い時間ながらオーボエの虜になってしまうにちがいない。

埼玉会館の近隣の協賛店にてコンサートのチケットを提示するといろいろなサービスが受けられる特典があり、コンサート後のお楽しみも用意されている。親しい友人を誘い、オーボエによるクリスマス・ソングで心あたたまるひとときを過ごした後、にぎやかな街に繰り出してみては?

新年の聴き初めは、弦楽の調べに酔いしれて

毎年趣向を凝らし行われている埼玉会館でのニューイヤー・コンサート。今回はヴァイオリニスト大谷康子と、彼女がソロ・コンサートマスターを務める東京交響楽団のメンバーからなる室内合奏団が出演。東京交響楽団は、夏の人気企画『夏休みオーケストランド!』に出演しており、埼玉の人ならよく知っているあのオーケストラだ。今回は大編成のオーケストラとはまた異なる、弦楽合奏編成で演奏する。

大谷康子はテレビ出演でもおなじみ、彼女がステージに上がると会場がぱっと明るく華やぐ。うんちく話をさりげなく散りばめたトークも軽妙で、自然に音楽に引き込まれてしまう。ソリストでありながらコンサート・マスターも兼ねる今回のステージはまさに彼女のキャラクター、演奏の両方が存分に楽しめることだろう。

演奏されるのは、クライスラーの《愛の喜び》、チャイコフスキーの《弦楽セレナーデ》などおなじみの一瞬で耳を奪われる美しいメロディの曲から、芥川也寸志の《弦楽のためのトリプティーク》といった普段聴く機会の少ない曲も取り上げ、練られたプログラムになっている。そしてシュトラウス2世の《美しく青きドナウ》も演奏され、お正月気分も盛り上がる。弦楽合奏は、小編成ならではの息の合ったアンサンブルが聴きどころ。大谷のリードで一音一音が艶やかに輝く演奏になることだろう。



Photo ◎ yukako kusano



Photo ◎尾形正茂

大谷康子

東京交響楽団ソロ・コンサートマスター。東京藝術大学、同大学院博士課程修了。全日本学生音楽コンクール全国第1位。シェリング来日記念コンクール第2位。国内外のリサイタルやオーケストラのソリストとして活躍。文化庁「芸術祭大賞」受賞。TV「題名のない音楽会」340回以上最多出演。CDはロングセラー『椿姫ファンタジー』、『プルッフ/サン=サーンス』他多数。東京音楽大学教授。東京藝術大学附属音楽高校講師。使用楽器は1708年製ピエトロ・グァルネリ。

東京交響楽団室内合奏団

東京交響楽団は1946年創立。音楽監督にジョナサン・ノット、正指揮者に飯森範親を擁する。
2015年に10年目を迎える恒例の「夏休みオーケストランド!」では、子供達にクラシック音楽の楽しさを届けている。また現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、サントリー音楽賞等を受賞。川崎市、新潟市、八王子市との提携公演や、新国立劇場ではオペラ・バレエ公演の演奏も担当。今回は弦楽合奏で東京交響楽団の魅力をお届けする。

渡辺克也

東京藝術大学卒業。在学中に新日本フィルに入団。90年日本管打楽器コンクールで優勝し大賞も受賞。91年渡独、ヴッパータール響、カールスルーエ州立歌劇場管、ベルリン・ドイツ・オペラ歌劇場管の首席奏者を歴任し、現在はソリスツ・ヨーロピアンズ・ルクセンブルクの首席奏者を務める。ソリストとしてもハンガリー放送響、ザグレブ・フィル、スロヴァキア・フィルや国内主要オケと共演。洗足学園音楽大学客員教授。ベルリン在住。さいたま市南浦和出身。
http://www.katsuyawatanabe.com



お帰りなさい、マエストロ! ―井上道義、11月29日には埼玉会館に登場

4月下旬から療養のため演奏活動の休止を余儀なくされていた指揮者の井上道義が、10月11日に鎌倉芸術館で開催されたNHK交響楽団とのシリーズ公演『いざ、鎌倉への道』で待望の復帰を果たした。当日は、マエストロのステージ姿を待ち望んでいた多くの聴衆が続々とホールに集まり、早くから着席。マエストロの登場に、「待ってました」とばかりの温かい拍手が贈られた。

前半はショーソンとマスネの作品で、ソリストの前橋汀子にぴたりと寄り添った流麗なタクトを披露したが、圧巻は後半、ブルックナーの未完の遺作《交響曲第9番》。病後とは思えぬ力強さとしなやかさでN響をぐいぐいと引き込み、60分以上にもわたる大作を見事に演奏しきった。

先立つ2日に行われた復帰会見で「一つ一つを今まで以上に大切に考えたい」「期待されているからただ戻ってきましたというのではいけない。僕は今までとは違う何かを持っていかなきゃいけない、そう強く思っています」と語ったマエストロ。2012年にN響とベートーヴェンで聴衆を魅了した埼玉会館に、11月29日、長年にわたる信頼関係をもつ新日本フィルハーモニー交響楽団とブラームス・プログラムを携えて戻ってくる。これは聴き逃せない。



Photo ◎星ひかる

公演概要

新日本フィルハーモニー交響楽団
井上道義(指揮)　竹澤恭子(ヴァイオリン)

日　　時:11月29日(土) 開演 15:00
会　　場:埼玉会館 大ホール
曲　　目:ブラームス/ヴァイオリン協奏曲ニ長調 作品77
　　ブラームス/交響曲第2番ニ長調 作品73

チケット(税込)　好評発売中
一　　般:S席 6,000円/A席 5,000円
メンバーズ:S席 5,500円/A席 4,500円
※B席・学生B席予定枚数終了しました。
※当初、予定していたプレトークは中止となりました。

公演概要

埼玉会館ランチタイム・コンサート第27回
渡辺克也 オーボエ・リサイタル

日　　時:12月11日(木) 開演 12:10(終演予定 13:00)
会　　場:埼玉会館 大ホール
出　　演:渡辺克也(オーボエ)、古澤幹子(ピアノ)
曲　　目:シューマン/3つのロマンス
　　アーヴィング・バーリン/ホワイト・クリスマス ほか

チケット(税込)　好評発売中
全席指定 1,000円

埼玉会館ニューイヤー・コンサート 2015
大谷康子&東京交響楽団室内合奏団

日　　時:2015年1月6日(火) 開演 14:00
会　　場:埼玉会館 大ホール
曲　　目:クライスラー/《愛の喜び》
　　J. シュトラウス2世/ワルツ《美しく青きドナウ》ほか

チケット(税込)　好評発売中
一　　般:S席 3,000円/A席 2,000円(学生1,000円)
メンバーズ:S席 2,700円
※年末年始期間のチケットご購入については P.23をご確認ください

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.26

アレクサンダー・ロマノフスキー

ロマノフスキーの高貴

ロシア・ピアニズムを継承しつつ、13歳で移住したイタリアの光と影をもルーツとする
アレクサンダー・ロマノフスキーがついにピアノ・エトワール・シリーズに登場する。
王道のプログラムで臨む彩の国でのリサイタルは、聴衆に忘れがたい記憶を残すだろう。



アレクサンダー・ロマノフスキー（ピアノ）
Alexander Romanovsky

ウクライナ生まれ。ソリストとして、ゲルギエフ指揮マリインスキー歌劇場管、プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管、ロイヤル・フィル、英国室内管弦楽団と共演。これまでヨーロッパをはじめ世界の主要な音楽祭に招かれる他、サンクトペテルブルグ・フィルと、ソリストとしてスピヴァコフと共にキエフ、バルト諸国、フランスのツアーに参加。ミラノのヴェルディ音楽院、ローマの聖チェチーリア音楽院、アムステルダムのコンセルトヘボウでも公演を行った。

［公演概要］

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.26
アレクサンダー・ロマノフスキー

日　　時：2015年1月17日（土）開演15:00
会　　場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲　　目：ベートーヴェン／ピアノ・ソナタ第14番 嬰ハ短調「月光」
ベートーヴェン／ピアノ・ソナタ第30番 ホ長調
ショパン／バラード第2番 ヘ長調
ショパン／バラード第4番 ヘ短調
ショパン／ピアノ・ソナタ第2番 変ロ短調

チケット（税込）　好評発売中
一　　般：正面席 3,500円
メンバーズ：正面席 3,200円
※バルコニー席、学生席は予定枚数終了しました。

Alexander

Piano Étoile series

文◎青澤隆明（音楽評論家）

ショパン、ベートーヴェンとの対話

アレクサンダー・ロマノフスキーのピアノには、高潔な精神の輝きがある。ノーブルな品性といってもいい。それは、透徹した響き、明晰で端正な構築とともに、大きな身体の大きな手、そして繊細な心から導かれる、純粋な意志の表明だ。

それは、とくにショパン、そしてラフマニノフの芸術を追い求める演奏家には、まさしく生命線ともいえるものだが、しかし現代においてはなかなか見出しにくい美質でもある。生来の気質に加えて、ウクライナからイタリアへ向かった育ちも深く関係しているだろうが、ロマノフスキーはそうした精神の輝きを純度高く芯に抱いたピアニストとみられる。

彩の国での今回のリサイタル・プログラムで、最初に決まっていたのがショパンの変ロ短調ソナタで、そこに2つのバラード、第2番ヘ長調と第4番ヘ短調が加えられた。演奏会前半には、ベートーヴェンが組み合わされ、嬰ハ短調作品27の2、ホ長調作品109と異なる時期の名作ソナタが採り上げられる。嬰ハ短調ソナタは2013年5月の前回来日でも披露した曲目で、30代に向かうロマノフスキーの成長を期待させる演奏だった。響きの透徹とノーブルな表情の先に、どれだけのドラマが展開できるかが今後の大成への重要な鍵だろう。ロマノフスキーはドイツ音楽にも正面から取り組み、ベートーヴェンでは2010年に録音した《ディアベッリ変奏曲》でも卓抜な手腕を示していたが、今回は後期ソナタが実演で聴ける。

まず、あの音である。ピアニストは音で存在する。固有の音をもつピアニストだけが、真のヴィルトゥオーゾとしての魔法の力を放つことができる。もちろん、それだけではまだ音楽にはならない。しかし、ひとつの音に物語の全体が宿らないかぎり、それが一作としての真実を語りつくすことはない。

水際立った音の透明な美しさ、高貴なまでの光輝や豊かに反射する色彩。その響きのうちにはウクライナの血を引く強烈な情感、ロシア文化の内向的な性格、そして13歳から暮らしてきたイタリアの光彩と造形美が鮮やかに結実している。ロマノフスキーの音は、神秘的ともいえる幽妙な詩性や繊細優美な情感の揺らめきも美しく反映している。

ウクライナ出身、ホロヴィッツの系譜

ロマノフスキーは1984年の生まれで、今年30歳だが、決して急いだところはないようにみえる。足早な成功は求めず、じっくりと真摯に作品と対話を続けていくだけなのだろう。もっとも10代から活躍してきた彼のコンクールでの華々しい成果として、17歳でブゾーニ国際コンクールに優勝したことも知られている。2011年のチャイコフスキー国際コンクールでは第4位にとどまったが、ラフマニノフ作品の演奏を称える「クライネフ賞」を受けた。

ウクライナ出身の名手と聞けば、おのずとホロヴィッツのことが思い浮かぶし、固有の音の特別な魅力をもつことでもそこに連想も行くが、ロマノフスキーは実際、ホロヴィッツの実姉レジーナの愛弟子であるレオニード・マルガリウスに14年間師事した。イタリアへの移住も、同朋の師を追ってイモラ・ピアノ・アカデミーに入ったといういきさつで、以来その地で自らの音楽を育むことになった。国際化が進み、いろいろな伝統のよいところをバランスよく学ぶという風潮のなかでも、十数年もひとりの師との信頼のなかで研鑽を積んできたことは、ロマノフスキーの演奏家としての個性を確固としたものに育むのに大きな力となったに違いない。それから、ロンドン王立音楽大学でディミトリ・アレクセーエフにも学んだが、彼はモスクワ音楽院でのディミトリ・バシキーロフの弟子である。こうした学びのなかには、強靭な技巧や音に対する知覚、ヴィルトゥオーゾの矜持などが含まれて、ロマノフスキーの若く柔軟な感性を導いたと想像される。

ロマノフスキーのピアノを聴く喜びはまた、研ぎ澄まされた生命の煌きと息づかいを辿りながら、明快に前を向いて歩く確かな足どりのうちにある。演奏者としての意識は、情熱を帯びながらも、冷厳なまでに覚醒している。濃密な情感が求める表現をバランスよく抑制し、見通しのよい造型に置く。それでいて、直感的に作品とダイレクトな結びつきを保っている鋭敏さがある。

ロマノフスキーの演奏は、最良の瞬間には、それを書いた時点の作曲家の心と緊密な繋がりを示す。ベートーヴェンとショパン、異なる個性をもつ革新的構成家を、ロマノフスキーの大きな目はくっきりとみつめることだろう。それは澄んでいて、しかしどこか神秘に魅せられた者としての熱い奥行きをもっている。

Romanowsky

彩の国レクチャー・シリーズ「劇場と地域づくり」第1回

『混浴温泉世界 BEPPU ―新たな地域づくりの実践から』

地域とともに舞台芸術の芽を育む取り組み「彩の国レクチャー・シリーズ」が始動。初年度テーマ「劇場と地域づくり」の第１回が９月19日に開講された。

前半は BEPPU PROJECT 代表理事の山出淳也氏によるレクチャー。大分県別府市では近年「文化」による市街地の活性化が進んでおり、山出氏はアートな地域づくりの仕掛人として多彩なプロジェクトに携わる。空き店舗や住居を活用した取り組み、３年に１度開催される国際芸術祭「混浴温泉世界」、毎年開催する市民文化祭「ベップ・アート・マンス」、地域の文化特性を活かした「国東半島芸術祭」など、規模や行政と市民との関わり方も様々。地域特性に徹底的に向き合い、地域と人とアートを「つなげる」ための発想を、豊富な実例を通して紹介した。

後半は、さいたま市で2016年に開催予定の国際芸術祭「さいたまトリエンナーレ(仮)」の総合アドバイザーを務める加藤種男氏と、当財団理事長の竹内文則が加わってのディスカッション。地域のブランドづくり、市民が自発的に関われる場の必要性、文化の経済波及効果など、今後の示唆に富む意見が交わされた。


山出淳也氏

加藤種男氏





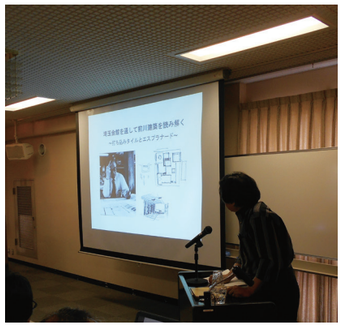
「埼玉会館の建築 -Architecture Art-」

大正15年、日本の公共ホールの先駆けとして誕生し、昭和41年に日本の近代建築に多大な功績を残した建築家、前川國男の設計により建て替えられた埼玉会館。その埼玉会館の特徴ともいえる建築に焦点を当て、知られざる魅力を紹介するイベントが9月15日に開催された。

はじめに、(株)前川建築設計事務所代表取締役所長の橋本功氏が「埼玉会館を通して前川建築を読み解く」というテーマで講演を行い、埼玉会館の特徴でもある打ち込みタイルやエスプラナードといった建築様式について紹介した。

講演後は、グループに分かれて実際に埼玉会館の外観を見学。エスプラナードのタイル模様や打ち込みタイルを間近で観賞し、その建築のアート的な側面を改めて感じるイベントとなった。また、終演後に行われた交流会では、活発な意見交換がされた。


埼玉会館の外観



彩の国さいたま芸術劇場 開館20周年記念パーティー



1. 上田知事より蜷川芸術監督へプレートの贈呈　2. スクリーンで活動を紹介　3. 元ネクスト・シアターメンバーによるバンド演奏　4. バースデーケーキを持ってサプライズ登場の藤原竜也さん

彩の国さいたま芸術劇場が開館20周年を迎え、1994年の開館日と同じ10月15日に記念パーティーが開かれた。

上田清司埼玉県知事、長峰宏芳埼玉県議会議長、清水勇人さいたま市長をはじめ、財団サポーター会員の皆さん、さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアターの各メンバーなどが駆けつけ、情報プラザの特設会場は大盛況。「次なる10年は地域に根ざした劇場として〈埼玉の財産〉と呼ばれる芸術を目指したい」との竹内文則財団理事長の挨拶に続き、上田知事からは「日本の新しい芸術文化の発進基地となる素晴らしい劇場になった。今後も広く県民から支えていただける劇場に」。蜷川幸雄芸術監督は「何よりも地域に愛される劇場にしたいと努めてきた。今後はボールを横や後方にもパスしながら走り続けたい」と決意も新たに挨拶。また今回、劇場の大稽古場に「NINAGAWA STUDIO」の愛称が付与されることになり、稽古場外に掲げる記念のプレートが上田知事から蜷川監督に贈られた。当日は蜷川の79歳の誕生日でもあり、『ジュリアス・シーザー』の舞台を模したバースデーケーキと共に、サプライズゲストの藤原竜也さんが登場。藤原や会場中の祝福を受け、大いに照れつつ笑顔を見せる蜷川監督の姿が印象的だった。ゴールド＆ネクストの活動をスクリーンとバンド演奏で紹介するコーナーもあり賑やかな祝賀パーティーとなった。



NINAGAWA STUDIO のプレート

横断幕の書は安田有吾さん（書楽家）



ありがとう!

大盛況!

彩の国さいたま芸術劇場

オープンシアター

開館20周年記念感謝祭開催！

11月３日、彩の国さいたま芸術劇場の誕生20周年を記念して、全館無料開放する「オープンシアター」を開催！　好天も手伝って当日は朝からたくさんのお客様で大賑わい。**光の庭プロムナード・コンサート『フェスタ!! ～貴方も私も風まかせ～』**では近藤良平の呼びかけに子供たちも続々と飛び入り参加（写真❶）。ここは近藤さんちの幼稚園か？ 小学校か？　**はじめての落語体験**では三遊亭ぬう生と一緒にドキドキの高座初挑戦。そばを食べたり刀を抜いたり、いかにもそれらしく見えるしぐさってけっこう大変（写真❷）。

音楽ホールでは**アフタヌーン・コンサート『劇音楽の黄金時代』**（写真❸）。エクルズ《狂える恋人》やペプシュ編曲《乞食オペラ》など古楽アンサンブルが奏でる華やかな音色に、17世紀ロンドンの劇場にいる気分。終演後には楽器見学も。

大ホールは常時開放で誰でもウェルカム（写真❹）。照明や音響の**劇場スタッフのお仕事体験**にみんな興味津々。この中から未来のスタッフさんが誕生するかも（写真❺）？　**チラシ作りワークショップ**では劇場の公演に欠かせない「宣伝」のお仕事のうちチラシ作りに挑戦（写真❻）。大人気の**劇場見学ツアー**では大ホールの舞台上や奈落、楽屋など普段入れない場所の探険が大好評（写真❼）。計５回のツアーはアッという間に定員に達して、参加できなかった方はごめんなさい！　映像ホールでは**映写機ワークショップ＆上映会**。デジタル時代にフィルムはかえって珍しかったみたい（写真❽）。劇場外の大階段では埼玉県のＢ級グルメを中心とした**屋台村**が出現。午後早々には売切れ店も続出の人気ぶり（写真❾）。

日もとっぷり暮れて、フィナーレは再び**光の庭プロムナード・コンサート**。廣澤麻美のオルガンと近藤良平のダンス、安田有吾の書の即興コラボレーションも楽しく、感謝感謝の大団円（写真❿）　！

Photo ◎加藤英弘（1 ～ 8、10）


1


2


3


4


5


6


7


8



9


10

皆さま、ご来館ありがとうございました。これからも彩の国さいたま芸術劇場をよろしくお願いいたします！

REVIEW 2014.9→10 彩の国のアーツ

PLAY　10月7日～25日

彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾『ジュリアス・シーザー』

舞台全面にしつらえた階段のセットを俳優たちが上から下へ、下から上へと駆けずり回り、躍動する「言葉」の力でシェイクスピア屈指のローマ史劇をねじ伏せるべく挑んだ。英雄ジュリアス・シーザー（横田栄司）の暗殺をやむなく決意するまでのブルータス（阿部寛）の逡巡と愚直な誠実さ、そのブルータスを過剰なまでの情と思い込みの強さで巻き込んでいくキャシアス（吉田鋼太郎）、観客を含む大衆の心を左右するマーク・アントニー（藤原竜也）の確信犯的演説術。男たちの論争ドラマは輝かしき勝利には向かわず、掛け違えたボタンが元に戻らぬまま運命の坂を転がり堕ちていく。再三あったはずの引き返すタイミングを逸し、結局は共倒れとなるブルータスとキャシアスの、夫婦にも似た絆の強さも印象深い。だがいくら正当性を主張しても、大義の消えた聖戦は殺人に過ぎないのだ。

Photo ◎引地信彦


阿部寛（左）、吉田鋼太郎


藤原竜也（左）、横田栄司

PLAY　9月30日～10月1日

白石加代子「百物語」シリーズ 第三十二夜 第99話ファイナル公演 第98話 三島由紀夫『橋づくし』／ 第99話 泉鏡花『天守物語』

ついにファイナルを迎えた「百物語」シリーズ。『橋づくし』は新橋芸者と料理屋の娘、付添いの田舎娘が織りなす三島由紀夫の小品。願掛けを巡る悲喜こもごもが小気味良いユーモアと共に描かれる。女４人を演じ分ける白石の愛らしさ！　トリを飾るのは泉鏡花の絢爛たる傑作『天守物語』。精悍な若者図書之助を見初めた富姫の「帰したくなくなった」「千歳百歳にただ一度、たった一度の恋だのに」をはじめとする流麗豊饒な鏡花節に酔いしれる。人ならぬものの血汐が通う白石の富姫が圧巻だった。

（写真は『天守物語』）

Photo ◎田中亜紀



PLAY　10月10日

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～彩の国落語大賞受賞者の会～ 三遊亭兼好

これまで錚々たる顔ぶれが受賞してきた「彩の国落語大賞」。平成25年度の大賞に選ばれたのは円楽一門会のホープ、三遊亭兼好。受賞のお祝いに師匠の好楽も駆けつけ、アットホームな笑いに包まれた会となった。けん玉は『たぬき』、鯛好は『饅頭こわい』、萬橘は『新聞記事』を披露。好楽は先妻の幽霊が忘れた頃にやって来る『三年目』。兼好はそそっかしすぎる男の爆笑もの『粗忽の釘』と、左甚五郎伝説の一説『竹の水仙』の２席を熱演。「落語会の革命児」としてさらなる活躍に期待したい。



Photo ◎加藤英弘

MUSIC　9月13日

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.3 小菅 優

小菅優は熟慮と情熱を併せ持ち、かつほとばしる感情をうまくコントロールできる大ベテランのようだった。バッハ《イタリア風のアリアと変奏》では普段取り上げられることの少ない作品の魅力を引き出し、ベートーヴェンの「ヴァルトシュタイン」ではピアノの音をシンフォニックに響かせた。後半の武満徹《雨の樹素描》２曲では一変して会場を透徹な空気で満たし、さらにリストでは作品に共感した深い解釈で、リストのピアニズムを堪能できる音世界へと誘ってくれた。

Photo ◎加藤英弘



MUSIC　10月12日

レ・ヴァン・フランセ

まさしく「夢のアンサンブル」。彩の国さいたま芸術劇場に３度目の登場となったレ・ヴァン・フランセは、名手たちそれぞれの「個」が際立ちながらも、まるで呼吸しているかのようにあくまで自然体の演奏で聴衆を包み込んだ。名刺曲のプーランクはもちろん、あまり馴染みのない作品にも、１曲１曲の演奏が終わるたびに、熱のこもった拍手が贈られた。彼らが知られざる名曲を次々と世に紹介していく意義も感じさせる公演となった。

Photo ◎加藤英弘



MUSIC　9月18日

埼玉会館ランチタイム・コンサート第26回 塚越慎子 マリンバ・リサイタル

パリ国際マリンバコンクールの覇者であり、国際的指揮者シャルル・デュトワも絶賛する、若手実力派のマリンバ奏者塚越慎子が登場。前半は、ウィッチバー《リズムダンス》やピアソラの作品などマリンバ・ソロの楽曲がならび、塚越の卓抜した音楽センスが光る。後半はピアノとのデュオで好演。《ツィゴイネルワイゼン》では、マレットの柄をも駆使した技巧で聴衆を驚かせた。また、曲間のトークから垣間見える塚越のチャーミングなキャラクターも聴衆を魅了した。

Photo ◎加藤英弘



MUSIC　10月 4日

ピエール=ロラン・エマール J. S. バッハ 《平均律クラヴィーア曲集第１巻》全曲演奏会

７ヶ月のサバティカルをとり、熟考を重ねたエマールの《平均律》は、バッハの時代から古典派、ロマン派を駆け抜け、現代の豊かな演奏となって現れた。迷いも揺るぎもなく弾ききった48曲は、冷静でありながら命の宿った熱い演奏だった。流麗に流れる前奏曲、フーガの各声部の有機的な構築の対比も見事であり、転調で終わる最後の音は、それまでと全く異なる世界へと誘ってくれる予感を瞬時に感じさせた。聴衆は余韻が消えるまで、エマールと《平均律》の世界を共有した。

Photo ◎加藤英弘



	PLAY	DANCE	MUSIC	CINEMA
11 november	開演時間	開演時間		
15 土				
16 日				
17 月	休館日（彩の国さいたま芸術劇場・熊谷会館）			
18 火				
19 水	休館日（埼玉会館）			
20 木				
21 金				
22 土				
23 日	さいたまゴールド・シアター 23「鴉よ、おれたちは弾丸をこめる」 18:00			
24 月祝	14:00／18:00			
25 火	19:30	休館日（彩の国さいたま芸術劇場）		
26 水	26 会場：にしすがも創造舎 14:00			
27 木				
28 金				
29 土				
30 日				
12 december				
1 月				
2 火				
3 水	休館日（埼玉会館）			
4 木	休館日（埼玉会館）			
5 金	埼玉県障害者アートフェスティバル 6 音楽朗読劇『旅へ! 自閉症の息子らと』 13:00／17:00			
6 土				
7 日				
8 月		休館日（彩の国さいたま芸術劇場）		
9 火		休館日（彩の国さいたま芸術劇場）		
10 水			埼玉会館ランチタイム・コンサート第27回 11 渡辺克也 オーボエ・リサイタル 開演：12:10（終演予定 13:00） 会場：埼玉会館 大ホール	
11 木				
12 金				
13 土				
14 日				
15 月		休館日（彩の国さいたま芸術劇場・熊谷会館）		
16 火			光の庭プロムナード・コンサート第72回 トワイライト・スペシャル Fantaisie de Noël ～オルガンと歌で綴る 20 世界のクリスマス～ 開演：17:00 会場：彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演：梅干野安未（オルガン）& 首藤玲奈（ソプラノ） 曲目：世界のクリスマス～キャロル・メドレー～ ヘンデル／《メサイア》より 《シオンの娘よ、大いに喜べ》 ほか ※入場無料 ※開演時間が通常と異なりますのでご注意ください。 ※バラのまち中央区アートフェスタ「Candle Art Night@芸術劇場」とともにお楽しみください。	
17 水				
18 木				
19 金				
20 土				
21 日				
22 月				
23 火祝				
24 水				
25 木				
26 金				
27 土	27 さいたまゴールド・シアター『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』 15:00			
28 日	28 会場：川越市市民会館やまぶき会館 中ホール 14:00			
29 月		休館日（彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館・熊谷会館）		
30 火		休館日（彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館・熊谷会館）		
31 水		休館日（彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館・熊谷会館）		
1 january				
1 木祝	休館日（彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館・熊谷会館）			
2 金	休館日（彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館・熊谷会館）			
3 土	休館日（彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館・熊谷会館）			
4 日				
5 月				
6 火				
7 水				
8 木				
9 金				
10 土				
11 日				
12 月祝	彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～柳家花緑 16 新春落語競演会 19:00			
13 火		休館日（彩の国さいたま芸術劇場）		
14 水				
15 木		休館日（熊谷会館）		
16 金				
17 土				
18 日				
19 月		休館日（彩の国さいたま芸術劇場）		
20 火	ニナガワ×シェイクスピア レジェンド第2弾 22『ハムレット』 18:30			
21 水		休館日（埼玉会館）		
22 木	18:30			
23 金	18:30			
24 土	24 新春狂言 万作・萬斎の世界 13:00／18:30			
25 日	開演：15:00 13:00			
26 月	会場：埼玉会館 大ホール			
27 火	13:00／18:30			
28 水	14:00			
29 木	14:00			
30 金	14:00			
31 土	13:00／18:30	日本昔ばなしのダンス 近藤良平『ねずみのすもう』 下司尚実『いっすんぼうし』 13:00/16:00		

	CINEMA
11 november	
15 土	
16 日	
17 月	
18 火	
19 水	
20 木	
21 金	
22 土	
23 日	
24 月祝	
25 火	
26 水	
27 木	
28 金	
29 土	
30 日	
12 december	
1 月	
2 火	
3 水	
4 木	
5 金	
6 土	
7 日	
8 月	
9 火	
10 水	
11 木	
12 金	
13 土	
14 日	
15 月	
16 火	
17 水	
18 木	
19 金	
20 土	
21 日	
22 月	
23 火祝	
24 水	
25 木	
26 金	
27 土	
28 日	
29 月	
30 火	
31 水	
1 january	
1 木祝	
2 金	
3 土	
4 日	
5 月	
6 火	
7 水	
8 木	
9 金	
10 土	
11 日	
12 月祝	
13 火	
14 水	
15 木	
16 金	
17 土	
18 日	
19 月	
20 火	
21 水	
22 木	
23 金	
24 土	
25 日	
26 月	
27 火	
28 水	
29 木	
30 金	
31 土	

詳細は⇒P.21
20 彩の国シネマスタジオ『笑う男』
開映：18:30
会場：埼玉会館 小ホール

詳細は⇒P.11
新日本フィルハーモニー交響楽団 井上道義（指揮） 竹澤恭子（ヴァイオリン） 29 開演：15:00 会場：埼玉会館 大ホール

詳細は⇒P.21
彩の国シネマスタジオ『マダム・イン・ニューヨーク』
上映時間
11 10:30/14:15/17:45
10:30/14:15/17:45
10:30/14:15/17:45
14 10:30/14:15

詳細は⇒P.10～11
埼玉会館 ニューイヤー・コンサート2015 6 大谷康子& 東京交響楽団室内合奏団
開演：14:00
会場：埼玉会館 大ホール

10『次代へ伝えたい名曲』第3回 堀米ゆず子 ヴァイオリン・リサイタル
開演：14:00

詳細は⇒P.22
17 ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.26 アレクサンダー・ロマノフスキー
開演：15:00

詳細は⇒P.12～13
光の庭プロムナード・コンサート第73回
開演：14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
出演：大塚直哉（オルガン）& 荒木優子（バロック・ヴァイオリン）
曲目：スウェーリンク／ヘクサコルド・ファンタジア バッハ／ソナタ ト長調 ほか
31 ※入場無料

詳細は⇒P.21
彩の国シネマスタジオ『バチカンで逢いましょう』
上映時間
9 10:30／14:00／17:00
10:30／14:00／17:00
10:30／14:00／17:00
12 10:30／14:00

彩の国シネマスタジオ 優秀映画鑑賞推進事業 W プログラム
A『張込み』
B『悪い奴ほどよく眠る』
C『黒い画集』
D『白い巨塔』
詳細は⇒P.21
上映時間
23 10:30 (C)／13:40 (B)／17:30 (D)
10:30 (B)／14:40 (D)／18:30 (A)
25 10:30 (D)／14:40 (A)／17:50 (C)
休館日（彩の国さいたま芸術劇場）

詳細は⇒P.8～9
日本昔ばなしのダンス 近藤良平『ねずみのすもう』 下司尚実『いっすんぼうし』 31 13:00/16:00

詳細は⇒P.22
彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～柳家花緑 16 新春落語競演会
詳細は⇒P.3～5

詳細は⇒P.22
24 新春狂言 万作・萬斎の世界
開演：15:00
会場：埼玉会館 大ホール

詳細は⇒P.22
さいたまゴールド・シアター『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』
27 会場：川越市市民会館やまぶき会館 中ホール
28

詳細は⇒P.23
埼玉県障害者アートフェスティバル 6 音楽朗読劇『旅へ! 自閉症の息子らと』

詳細は⇒P.22
ニナガワ×シェイクスピア レジェンド第2弾 22『ハムレット』

3歳以上のお子様から楽しんでいただける公演です。
光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ第30弾× さいたまネクスト・シアター第6回公演 『リチャード二世』

詳細は⇒P.6

チケット発売日　一般：2015年1月31日（土）
メンバーズ：2015年1月24日（土）

彩の国さいたま寄席　四季彩亭 ～三遊亭小遊三と精鋭若手落語会



春の四季彩亭は、笑点でもおなじみの三遊亭小遊三と精鋭若手落語家たちとの落語会。どうぞお楽しみに。

Photo ◎加藤英弘

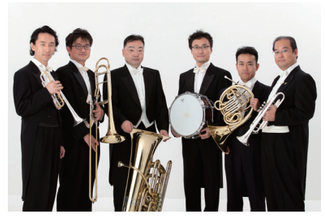
チケット発売日　一般：2015年1月16日（金）
メンバーズ：2015年1月10日（土）

日時：2015年４月24日（金）開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演：三遊亭小遊三 ほか
チケット（税込）
一般：3,000円　ゆうゆう割引（65歳以上・障がい者）：2,000円　メンバーズ：2,700円

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第28回 東京吹奏楽団メンバーによる 金管五重奏+打楽器

創立50年以上を誇るプロフェッショナル吹奏楽団のメンバーが贈る、ブラス&パーカッションの響き。



チケット発売日　一般：12月7日（日）
メンバーズ：12月6日（土）

日時：2015年3月5日（木）開演12:10（終演予定13:00）
会場：埼玉会館 大ホール
出演：松居洋輔・佐藤秀徳（トランペット）、渡辺善行（トロンボーン）、比嘉康志（ホルン）、野本和也（テューバ）、橋本淳平（パーカッション）
曲目：ブラスで紡ぐ日本の唄、カルメンファンタジー ほか
チケット（税込）
全席指定 1,000円

庄司紗矢香&ジャンルカ・カシオーリ デュオ・リサイタル

ヴァイオリンとピアノのための名曲に新たな光をあてる演奏で聴衆を惹きつけてやまないデュオが、3度目の登場!



Photo ◎ Kishin Shinoyama



Photo ◎ Silvia Lelli

チケット発売日　一般：12月14日（日）
メンバーズ：12月7日（日）

日時：2015年5月24日（日）開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：庄司紗矢香（ヴァイオリン）、ジャンルカ・カシオーリ（ピアノ）
曲目：ベートーヴェン／ヴァイオリン・ソナタ第6番 ほか
チケット（税込）
一般：正面席6,000円／バルコニー席5,000円
U-25*（バルコニー席対象）：2,500円
メンバーズ：正面席5,500円
*U-25チケットの詳細はP.23をご覧ください。

彩の国シネマスタジオ LINE UP 2014.11→2015.1

【全席自由・各回入替制・整理券制】
料金：【当日支払いのみ】**大人1,000円／学生500円**（学生証を確認する場合がございます）
※11月20日の「笑う男」（会場：埼玉会館 小ホール）は、特別料金となります。
※1月の「優秀映画鑑賞推進事業Wプログラム」は、大人・学生とも1作品500円となります。



11月20日（木）

会場：**埼玉会館 小ホール**

活動弁士・伴奏つき無声映画上映
『笑う男』
20日（木） 18:30

監督：バウル・レニ
出演：コンラート・ファイト、メアリー・フィルビン　ほか
弁士：澤登 翠
伴奏：カラード・モノトーン
（1928年／アメリカ／110分）

チケット（税込）　全席指定
一般：前売 2,000 円／当日 2,500 円　学生：前売 1,000 円／当日 1,500 円
メンバーズ：前売・当日 1,800 円
チケット好評発売中



©2012 Sperl Productions GmbH, Arden Film GmbH, SevenPictures Film GmbH, Co-Produktionsgesellschaft "Oma in Roma" GmbH & Co. KG, licensed by Global Screen GmbH

2015年1月9日（金）～12日（月・祝）

会場：**彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール**

『バチカンで逢いましょう』
9日（金） 10:30／14:00／17:00
10日（土） 10:30／14:00／17:00
11日（日） 10:30／14:00／17:00
12日（月・祝） 10:30／14:00

監督：トミー・ヴィガント
出演：マリアンネ・ゼーゲブレヒト、ジャンカルロ・ジャンニーニ ほか
（2012年／ドイツ／105分）



©Eros International Ltd.

12月11日（木）～14日（日）

会場：**彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール**

『マダム・イン・ニューヨーク』
11日（木） 10:30／14:15／17:45
12日（金） 10:30／14:15／17:45
13日（土） 10:30／14:15／17:45
14日（日） 10:30／14:15

監督・脚本：ガウリ・シンデー
出演：シュリデヴィ ほか
（2012年／インド／134分）



「張込み」

2015年1月23日（金）～25日（日）

会場：**彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール**

優秀映画鑑賞推進事業Wプログラム
A『張込み』　B『悪い奴ほどよく眠る』
C『黒い画集』　D『白い巨塔』

23日（金） 10:30（C）／13:40（B）／17:30（D）
24日（土） 10:30（B）／14:40（D）／18:30（A）
25日（日） 10:30（D）／14:40（A）／17:50（C）

A『張込み』（1958年／116分）
監督：野村芳太郎
出演：大木 実、宮口精二、菅井きん ほか

B『悪い奴ほどよく眠る』（1960年／151分）
監督：黒澤 明
出演：三船敏郎、森 雅之、香川京子 ほか

C『黒い画集　あるサラリーマンの証言』（1960年／95分）
監督：堀川弘通
出演：小林桂樹、原 知佐子、平田昭彦 ほか

D『白い巨塔』（1966年／150分）
監督：山本薩夫
出演：田宮二郎、東野英治郎、藤村志保 ほか

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ番外編 ニナガワ×シェイクスピア レジェンド第2弾 『ハムレット』

詳細は ⇒ P.3 ~5

さいたまゴールド・シアター 『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』

作：清水邦夫
演出：蜷川幸雄
出演：さいたまゴールド・シアター、
　　さいたまネクスト・シアター
■東京公演　フェスティバル/トーキョー14 参加
日時：11月23日（日）開演18:00
　　24日（月祝）開演14:00（追加公演）／18:00
　　25日（火）開演19:30
　　26日（水）開演14:00
会場：にしすがも創造舎
チケット（税込）
全席自由（整理番号付）一般4,000円（当日4,500円）
ほか
■川越公演
日時：12月27日（土）開演15:00
　　28日（日）開演14:00
会場：川越市市民会館やまぶき会館 中ホール
チケット（税込）
全席指定4,000円　メンバーズ3,600円
※香港公演・パリ公演・豊橋公演あり

新春狂言　万作・萬斎の世界

日時：2015年1月24日（土）開演15:00
会場：埼玉会館 大ホール
出演：野村万作、野村萬斎、石田幸雄、深田博治、
　　高野和憲、月崎晴夫、内藤 連、飯田 豪
演目：『咲嘩』、『悪太郎』
チケット（税込）
一般：S席 5,000円／A席 4,000円／B席 3,000円
U-25*（B席対象）：2,000円
メンバーズ：S席 4,500円／A席 3,600円／B席 2,700円

■開演前に狂言講座を開催！
日時：1月24日（土）開演13:00（12:30開場）
　　※約1時間予定
出演：深田博治、月崎晴夫、内藤 連
※1月24 日公演のチケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。

彩の国さいたま寄席　四季彩亭 ～柳家花緑 新春落語競演会

日時：2015年1月16日（金）開演19:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演：柳家花緑、三遊亭鬼丸、蜜気楼龍玉、
　　古今亭文菊、柳家わさび
チケット（税込）
一般：3,000円　ゆうゆう割引（65歳以上・障がい者）：2,000円　メンバーズ：2,700円

MUSIC

新日本フィルハーモニー交響楽団 井上道義（指揮）　竹澤恭子（ヴァイオリン）

詳細は ⇒ P.11

埼玉会館ランチタイム・コンサート第27回 渡辺克也 オーボエ・リサイタル

詳細は ⇒ P.10 ~11

埼玉会館ニューイヤー・コンサート2015 大谷康子&東京交響楽団室内合奏団

詳細は ⇒ P.10 ~11

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第3回 堀米ゆず子 ヴァイオリン・リサイタル

日時：2015年1月10日（土）開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：堀米ゆず子（ヴァイオリン）、津田裕也（ピアノ）
曲目：モーツァルト／ヴァイオリン・ソナタ第40番
　　変ロ長調
　　ドビュッシー／ヴァイオリン・ソナタ
　　三善 晃／ヴァイオリンのための鏡
　　フランク／ヴァイオリン・ソナタ イ長調
チケット（税込）
一般：正面席4,000円／バルコニー席3,000円（学生1,500円）　メンバーズ：正面席3,600円

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 ピアノ・エトワール・シリーズVol.26 アレクサンダー・ロマノフスキー

詳細は ⇒ P.12 ~13

佐藤俊介の現在 Vol.1 ヴァイオリン×ダンス ―奏でる身体

日時：2015年2月14日（土）開演15:00（休憩なし）
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：佐藤俊介（ヴァイオリン）、柳本雅寛（ダンス）
演出：田村吾郎
曲目：J. S. バッハ／《無伴奏ヴァイオリン・ソナタとパルティータ》より
　　イザイ／《無伴奏ヴァイオリン・ソナタ》より
　　ほか
チケット（税込）
一般：4,000円　U-25*：2,000円　メンバーズ：3,600円
※本公演は、演出の都合により正面席のみの販売になります。

DANCE

日本昔ばなしのダンス 近藤良平『ねずみのすもう』 下司尚実『いっすんぼうし』

詳細は ⇒ P.8 ~9

CINEMA

彩の国シネマスタジオ　埼玉会館上映会 『笑う男』

詳細はP.21彩の国シネマスタジオ LINE UPをご覧ください。

*U-25チケットの詳細はP.23をご覧ください。

［チケットの購入方法について］

インターネット

SAF 埼玉県芸術文化振興財団 オンラインチケット
「SAF オンラインチケット」で、発売初日 10:00 から公演前日 23:59 まで受付いたします。
【PC・携帯共通】http://www.ticket.ne.jp/saf/

メンバーズ　登録のご住所へ無料配送
一　般　【クレジットカード決済】または【コンビニ支払い】 ⇒ 【コンビニ発券】
※チケット代の他に、店頭発券手数料（チケット1枚につき120円）が必要です。

電話予約

●チケットセンター
0570-064-939
10:00 ~ 19:00（彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く）
※一部の携帯電話、PHS、IP 電話からは受付できません。

メンバーズ　登録のご住所へ無料配送
一　般　【クレジットカード決済】または【コンビニ支払い】 ⇒ 【コンビニ発券】
※チケット代の他に、店頭発券手数料（チケット1枚につき120円）が必要です。
※コンビニ支払い後に宅配便での配送も承りますが、チケット代のほかに配送料（配送1件につき400円）が必要です。

窓口販売

下記窓口で直接購入いただけます。
電話予約したチケットの引取もできます。
●彩の国さいたま芸術劇場（10:00～19:00）
●埼玉会館（10:00～19:00）
●熊谷会館（10:00～17:00）
※休館日をお確かめの上ご来場ください。

メンバーズ　【口座引落】 ⇒ その場でチケットをお渡しします。
一　般　【現金】または【クレジットカード決済】 ⇒ ※手数料はかかりません。

THEATER BRIDGE

Information

「埼玉県障害者アートフェスティバル」を開催!



音楽朗読劇『旅へ！自閉症の息子らと』に出演する川辺久造（左）、神保共子［共に文学座］

12月6日（土）から翌年3月12日（木）まで、埼玉県障害者アートフェスティバルを開催します。彩の国さいたま芸術劇場では、自閉症の息子の母親の視点で綴られたノンフィクションを舞台化した音楽朗読劇『旅へ！自閉症の息子らと』や、コンドルズの近藤良平氏の公開ダンスワークショップを開催します。また、埼玉会館では、県内に暮らす障害のある人たちの選りすぐりの作品を集めた障害者アート企画展を開催するほか、どなたでも御参加いただけるバリアフリーコンサートを開催します。ぜひ御来場ください。

【問い合わせ】埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会事務局
　　電話：048(830)3312

【彩の国さいたま芸術劇場】

■音楽朗読劇『旅へ！自閉症の息子らと』
日時：12月6日（土）13:00／17:00　**会場：**小ホール
チケット（税込）全席指定1,000円

■近藤良平の公開ダンスワークショップ
日時：2015年2月20日（金）、24日（火）12:00　**会場：**小ホール ほか
※見学無料。参加は事前申込が必要となります。

【埼玉会館】入場無料

■障害者アート企画展
日時：12月11日（木）～16日（火）10:00 ～18:00（初日のみ14:00 ～18:00）
会場：第３展示室

■バリアフリーコンサート
日時：12月14日（日）12:00/14:30　**会場：**ラウンジ

Information

年末年始の休業について

平素は当財団事業につきまして格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。当財団の運営する3館の施設利用及びチケット販売について下記の通り休業させていただきます。何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

〈各施設のスケジュール〉

	12月28日（日）	12月29日（月）～1月3日（土）	1月4日（日）
彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 熊谷会館	通常営業	**全館休館**	通常営業

〈チケット販売〉

	12月28日（日）	12月29日（月）～1月3日（土）	1月4日（日）
彩の国さいたま芸術劇場内 チケットセンター （窓口販売・電話受付）	10:00 ～19:00	**全館休館のため休業いたします**	10:00 ～19:00
埼玉会館	10:00 ～19:00		10:00 ～19:00
熊谷会館	10:00 ～17:00		10:00 ～17:00
インターネット チケット販売 【SAFオンラインチケット】	**24時間ご利用になれます** ※12/28（日）16時以降のお申込みにおいて、お渡し方法【配送】でのご予約チケットは、1/4（日）の発送となります		

※「埼玉会館ニューイヤー・コンサート（2015年1月6日開催）」につきましては、2014年12月28日（日）16時以降のお申込み分はすべて公演当日会場でのお渡しとなります（開演1時間前より受付開始）。何卒ご了承ください。
※メンバーズ事務局（TEL: 048-858-5507）につきましても、12月29日（月）～1月3日（土）は休業いたしますので、1月4日（日）10時以降にお問い合わせくださいますようお願いいたします。

Information

「U-25」チケット、はじめました!

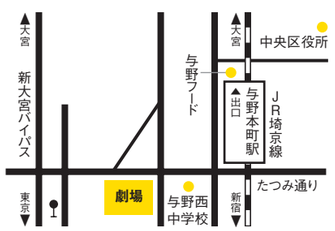
多くの若い方に、舞台芸術を愉しんでいただきたく25歳以下を対象に「U-25」チケットをはじめました。この機会にぜひ、親子で、学校のお友だち同士で劇場に足を運んでみませんか？

■販売場所
・SAFチケットセンター（10:00 ~19:00）　0570-064-939
・SAFオンラインチケット　www.ticket.ne.jp/saf/
・窓口（彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館）

■注意事項
・公演時、25歳以下の方が対象です。
・「U-25」チケットは対象の公演、日程、席種がございます。ご確認の上、お買い求めください。
・「U-25」チケットは公演当日、会場・入場口（もぎり）で身分証明書（学生証・保険証・免許証など公式に年齢を確認できるもの）と一緒に係員にお見せください。
・「U-25」チケットは枚数制限がございます。上限に達し次第、販売を終了いたします。

ACCESS MAP アクセスマップ

［彩の国さいたま芸術劇場］



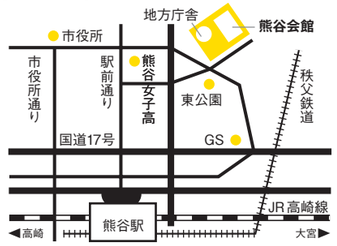
〒338-8506　埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1
電話：048-858-5500（代）　ファックス：048-858-5515
●電車でのアクセス
→ JR 埼京線与野本町駅（西口）下車　徒歩７分
●バスでのアクセス
→ JR 京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車　徒歩２分

［埼玉会館］



〒330-8518　埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4
電話：048-829-2471（代）　ファックス：048-829-2477
●電車でのアクセス
→ JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線浦和駅（西口）下車
徒歩６分

［熊谷会館］



〒360-0031　埼玉県熊谷市末広 3-9-2
電話：048-523-2535（代）　ファックス：048-523-2536
●電車でのアクセス
→ JR 高崎線熊谷駅（北口）下車　徒歩 15 分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

サポーター会員

（公財）埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが（公財）埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

（株）与野フードセンター／（株）亀屋／（株）松本商会／（有）香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／テレビ埼玉ミュージック／埼玉りそな銀行／（株）パシフィックアートセンター（株）アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／東京ガス（株）／カヤバ システム マシナリー（株）／（株）タムロン／（株）十万石ふくさや／森平舞台機構（株）東芝エルティーエンジニアリング（株）／埼玉トヨタ自動車（株）／（有）齋賀設計工務／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル／アルピーノ村／国際照明（株）／埼玉スバル桶本興業（株）／（株）佐伯紙工所／（株）太陽商工／（株）しまむら／（有）六辻ゴルフセンター／不動開発（株）／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／（株）栗原運輸彩の国ＳＰグループ／（有）プラネッツ／関東自動車（株）／（株）デサン／セントラル自動車技研（株）／丸美屋食品工業（株）／ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット（株）公認会計士 宮原敏夫事務所／（株）価値総合研究所／（株）埼玉交通／医療法人 顕正会 蓮田病院／（株）ウイズネット／サイデン化学（株）／アイル・コーポレーション（株）五光印刷（株）／旭ビル管理（株）／ヤマハサウンドシステム（株）／（株）エヌテックサービス／（株）クリーン工房／（株）つばめタクシー／（株）サンワックス／（株）綜合舞台（株）タクトコーポレーション／広総業（株）／（財）さいたま住宅検査センター／（株）国大セミナー／（株）NEWSエンターテインメント／（株）オーガス／イープラス六三四堂印刷（株）／医療法人 欅会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／医療法人社団 山粋会 山崎整形外科／サンケイリビング新聞社／（株）三和広告社／（株）セノン東京新聞ショッパー／（株）松尾楽器商会／（有）中央舞台サービス／JA埼玉県中央会／日本大学芸術学部／（株）川口自動車交通／（株）ホンダカーズ埼玉ファミリーマートあすまや／（有）杉田電機／丸茂電機（株）／太平ビルサービス（株）さいたま支店／（株）片岡食品／（株）協栄／（株）ヨコハマタイヤジャパン／NTT東日本 埼玉支店チャコット（株）／（株）平和自動車／光陽オリエントジャパン（株）／埼央建設（株）／さくらMusic Office／神田大塚法律事務所／クワバラ･パンぷキン／駒橋内科医院／東和産業（株）テレビ埼玉／日本ピストンリング（株）／金井大道具（株）

【お問い合せ先】（公財）埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当　TEL 048-858-5507

H26.10.25 現在／一部未掲載

彩の国 LOUNGE vol.14

ロシア・ピアニズム

文◎青澤隆明（音楽評論家）



ウラディミール・ホロヴィッツ（©ZUMA Press/ アフロ）

ロシア芸術への畏怖に近い思い。それは、ロシアの大地の広大さや、寒さのなかで培われる底知れぬ情念、そして競技などでみられるストイックな技術の高さと、どこかで重なってくる。さすがにちょっとかなわないな、と私たちに思わせるのは、ロシア・ピアニズムを受け継ぐ演奏家の威力を実感するときもそうだ。

響きの重厚さと、情感と幻想の濃密さ、そして完璧を目指す技術的な水準の高さ。大柄な身体に恵まれ、体重をかけて鍵盤からピアノの体躯全体を地鳴りさせるような奏法、かと思えば反射神経のいい鋭敏な打鍵で、真珠の輝きやめくるめく色彩を濃密に引き出す魔法のような幻惑。その背景には、モスクワとサンクトペテルブルク二都の名門音楽院を中心に、高度な教育と技能の鍛錬を受け継いだ伝統の重みが感じられる。

大きくみてもいくつも流派があり、さまざまに混交しているうえに、ひとりひとりが強い個性の持ち主だから、ロシア・ピアニズムという言葉で一括するのは無理がある。遡るならば、19世紀前半のロシアを演奏で訪れ、その萌芽を導いたのはリストで、ワイマールで教えたジロティやパプスト、彼らの弟子のイグムノフやゴリデンヴェイゼル、ラフマニノフらが伝統をつくっていった。リストも称賛したアントン・ルビンシュタインは、ゲンリフ・ネイガウスの叔父ブルーメンフェルトを教え、ホロヴィッツは孫弟子にあたる。ギレリス、リヒテルほかソヴィエト時代にヴィルトゥオーゾを輩出した地盤には、国家の威信を賭けた組織的な教育の力があった。そして、演劇、文学や絵画を敬愛し、芸術の創造性を重視する個性の発揚があった。

セルゲイ・ラフマニノフ



SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2014.11-12

平成26年11月15日発行54号（隔月15日発行）　第54号（11月-12月）
発行人：竹内文則　発行：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506　さいたま市中央区上峰3-15-1　TEL.048-858-5500